

世界人と成るべし

海田町名誉町民 織田幹雄氏をたどる

第4回

運命の出会い

1928年8月2日 第9回オリンピックスタジアムで
会陸上競技三段跳で、15m21cmを跳んで優勝し、日本人最初の
金メダルを獲得した海田町出身の織田幹雄さん。

織田幹雄さんがこの栄誉を手にするまでに、節目、節目で自
己を変えるきっかけとなる出会いがありました。

第1〜3回では、織田さんのご子息、正雄さん、和雄さんに父・
織田幹雄さんについて語っていただきましたが、今回は、陸上
競技に出会ってから広島一中（※1）徒歩部（※2）に入部す
るまでの16年間の軌跡を本人の視点から辿ります。

父親との出会い

織田さんは父親からたくさ
んの影響を受けました。織田
さんの父親は、織田さんが小
学生の時代、庭の掃除やまき
割と風呂焚きの役目を織田さ
んに与えました。どうやった
らこの仕事を早く片付けるこ
とができるか、どこにナタを
振りおろせばまきがきれいに
割れるかという考えまし
た。この時の経験が陸上競技
に役立っており、晩年の講演
会でも、「どんなことでも工
夫することが出来たのはこの
事があったからだ。」と言っ

ておられます。

小学5年生担任檜垣先生との 出会い

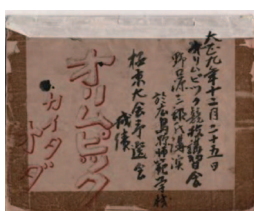
この出会いが無ければ広島
一中で陸上競技に熱中する織
田少年はありませんでした。
織田さんに上級学校に行くこ
とをすすめた檜垣先生。「家
は貧乏だし、子どもみんなは
とても学校にやれない」と考
えていた織田さんの父親を口
説きおとし、織田さんの中学
進学が実現したのでした。織
田さんは著書などに、このこ
とを数多く綴っておられます。

広島一中体育教師宇佐美先生
との出会い

十種競技選手野口源三郎さ
ん（第7回オリンピックアン
トワープ大会出場）の講習会
が行われ、この講習会への
参加を推薦したのが宇佐美先
生でした。講習会最終日に行
われた走り高跳びの記録会
で、織田さんは、155cmと
いう参加者中最も低い身長な
がら、この時跳んだバーの高
さは157cm。講師野口源三
郎さんから「よくバネがきい
ているね。小さいのによく跳
ぶ。練習すれば、日本代表も
夢じゃないよ」と言われ、こ
の言葉が彼を陸上競技の道へ
進ませるきっかけになり、金
メダル獲得への第一歩となっ
たのでした。

こうして翌年の4月、広島
一中徒歩部「織田幹雄」が誕
生したのでした。

※1 現在の広島国泰寺高等学校
※2 当時は陸上部と言っていま
せんでした。



▲講習会の時のことを記
録したノート

広報かいた8月号(No.578)

平成27年8月1日発行

発行／海田町 編集／企画部企画課

〒736-8601 広島県安芸郡海田町上市14番18号
TEL(082)823-9212 FAX(082)823-6003

ホームページ <http://www.town.kaita.lg.jp/>
(携帯版) <http://www.town.kaita.lg.jp/mobile/>
E-mail kikaku@town.kaita.lg.jp



印刷／レーブレス
株式会社